

防災訓練等指導業務報告書

リーダー	ファシリテータ	ファシリテータ	ファシリテータ	ファシリテータ	事務局長	事務局

研修団体名	愛媛県立新居浜工業高等学校			住所	新居浜市北新町8-1	電話	37-2029
研修日時	令和4年11月26日 土曜日 9時00分～12時00分			研修対象者	新居浜工業高校 1～3年生	研修人数	15人 (3グループ)
研修場所	新居浜工業高等学校 大会議室			研修目的	本年度防災教育研究指定校となっており教育の一環としてHUG研修を行いたい。		
講師	森野 重明 馬越 健	ファシリテータ	近藤 雅義	菅 秀臣		オブザーバー	

事前打合せ

日時	令和4年11月18日 金曜日 17時00分～18時00分	場所	新居浜工業高等学校 会議室
参加者 研修者	工業高校 日野教師	参加者 ネットワーク	馬越リーダー、菅事務局長
・研修日時	11月26日 土曜日 9時～12時	・講習内容	地震バージョン 120分
・場所	工業高校 会議室	・準備品について	教材(カード)、PC 雑材 不足品等については学校にて準備 設備(マイク、スクリーン)については 学校機材を貸与 図面は学校側にて準備を行う。
・参加者予定	工業高校 1～3年生		
	ネットワーク 講師：森野・馬越 ファシリテーター：菅		
	・当日は、8時30分に集合して、会場準備を行う。 講演開始は、9時といたします。		
	・テーブルへの振り分けは、学校側にて行う。		
	・駐車場は校舎南側を使用。		

防災訓練等指導内容

<p>・リーダー、読手を決めゲーム開始</p> <ul style="list-style-type: none"> 読手のスピード感あり、1班 240枚 2・3班は全数読み切りました。 <p>トイレ関係の問題で対処・処理できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 1番難しい事であり、その場での対応することが大変であった。 → 携帯トイレ用品等は普段より準備しておく必要があり、また段ボール+ビニール袋を利用した仮設トイレの作り方、使い方の教育・研修を済ませておくことも必要になってくる。 <p>Q1, HUG研修で難しかった事は何でしたか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの旅行客をどのように配置するかで、とても迷いました。あと一気に人が流れ込んでくるのでただ人の配置をするだけでも大変でした。 ・一人ひとりの事情を考慮しながらその人に合った教室に割り当てなければならなかったこと。 ・イベントカードの問題を解決するとき場所をとったりする時が難しかった。 ・次々と来る避難者やイベントをどこにどうやって振り分けかをすぐ判断するのが難しかった。 ・対応力。 ・ほかの人と協力して物事を進めていくこと。 ・急いで対応することが難しく一人ではできないと感じました。 <p>Q2, 研修で意識したことや頑張ったこと何でしたか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の中で生活しやすいような配置にしようとした。 ・できるだけ迅速な対応を行うように頑張った事。 ・本当にこの状況になったときにしっかりできるかを意識した。 ・イベントカードにかいてあることから読み取れる情報を頭の中で整理して、できるだけ簡単にまとめてボードに紙を貼ることができました。 ・教室を使うことを意識しました。病気の人は外傷か精神的な病気かなど様々な症状があって症状別に分けて部屋を作ったので大変でした。 ・みんなと連携をとって話し合ったこと。 ・グループや家族、旅行者で分けてどこに集めたらいいか意識しながら振り分けました。
--

発行番号No.

令和4年11月26日



- ・研修を受けての感想
 - ・HUGをやって災害発生時の大変さがわかりました。今回はゲームだったので人の流れを処理しやすかったけど実際の災害ならもっと人が流れ込んできて、いろいろなトラブルが起きることが考えられるので、避難所の運営に協力したいと考えるようになりました。
 - ・様々な対策とシミュレーションをやっておこうと思いました。
 - ・大きな地震や災害を経験したことがないので少し難しい部分もあったけど、今回学んだことを生かせればと思いました。
 - ・もし実際に災害が起きたら今回の事を思い出して自分にできるといいなと思いました。
 - ・改めて災害について考え直すことができました。
 - ・HUGのおかげで避難所で指揮を執っている人や運営している人の大変さがわかりました。もし災害がおきて避難所に行くことがあったら何か自分にできることをしたいと思いました。
 - ・この研修を受けて防災意識の向上に目覚めました。
- ・講師講評

対象者が高校生であったこともあるが、HUG開始後すぐに参加者全員が座ることもなく積極的に取り組んでいる姿が印象的であった。

自分たちの学校という事もあり敷地図には書かれていないシャワー室や洗濯機の設置場所などうまく利用した対応ができていた。

福祉避難所など詳細が分からないことへの質問もファシリテータに聞くなど、実際の災害時にもこのゲームで得たものを実践してもらえるのではと感じた。